

【令和5年度農業大学校 重点目標】

番号	重点目標	評価指標	具体的方策	実績(基準日:2月1日)	課題等	担当部課
1	多角的な学生募集活動の推進による入学者の増加 (教務課、養成部、研修部)	◎令和6年度入学試験合格者数 40名 (R3実績:42名、R4実績:34名) ※入学者数 R3:39名、R4:31名	(1)学生募集PR版の作成(新卒やスマート農業をアピールする内容を追加) (2)農大キャラバン隊の県内高校訪問による学生募集(6月) (3)各高校の進路ガイダンスへの参加による農大PR (4)農大オープンキャンパスの開催(5月、10月) (5)農大体験カレッジの開催(7月) (6)高校職員向けオープンキャンパスの開催(8月) (7)農高・農大連携会議の開催による情報共有(5月、2月) (8)農高主催の民間講師招聘事業への講師派遣 (9)農業高校の保護者へ農大PRのプリントを作成し全員に配付 (10)各農業高校と連携し、9～10月頃に1・2年生を対象とした説明会を実施 (11)各振興局ごとに「担い手育成計画」に基づき各作物担当を入れた情報交換、部会等を通じた農業高校・農大への進学への働きかけ(本土地区は6月の学校訪問又は7月の懇談会、離島地区は6月の学校訪問にあわせて実施) (12)推薦入試における受験資格、学科試験(数学)及び定員数の見直し	【実績】推薦・1次入試合格者38名(うち農大カレッジ参加者24名)※R4:32名 (1)学生募集パンフレットの更新の写真を取り入れた。 (2)県内の高校訪問した。73校(6月～7月) (3)高校主催ガイダンスへ参加した。6校 (4)第1回目オープンキャンパスを開催した。(5/20)参加者32名 (5)農大カレッジを開催した。(7/15・16)参加者43名 (6)高校職員向けオープンキャンパスを開催した。(8/18)参加者9名 (7)農高・農大連携会議を開催した。(5/26、2/16予定) (8)農高主催の民間講師招聘事業は、諫農より果樹専攻生徒9名が来校した。 (9)農業高校の保護者へ農大のプリントを作成し配付した。(4月) (10)各農業系高校の1年生が10～12月に来校し、本校の説明を行った。 (11)各振興局担当者にも6・7月の高校訪問に帯同していただいた。 (12)推薦入試における受験資格、数学、定員数を見直した。	(1)1・2年生を対象に農大の説明を行うことで、徐々に認知度が上がっている。進学先の一つとして検討してもらえるように、今後も積極的に進路ガイダンス等に参加したい。 (2)推薦入試の受験資格等を見直したことで、1名の受験者が新しい制度を利用した。	教務課
		○農大訪問者やオープンキャンパス等の参加者へアンケートによるホームページの認知度確認 70%以上 ※次年度以降認知度向上を目標にする	(1)受験希望者やその保護者に興味をもってもらうよう、学生の学習成果やトピックス、スマート機器の導入、学科再編(コース制)の紹介、寮生活の様子、卒業生の近況や就農・就職先の職場の声など、ホームページやSNSによる情報発信内容の充実を図る (2)農大入学者、高校生などへのアンケート調査に基づく効果的な情報発信方法の見直し (3)アクセス履歴を集約し、閲覧者の関心が高い時期や内容の特定 (4)ホームページ更新回数【学科・コース目標】 野菜コース:60回、花きコース:20回、果樹コース:40回、畜産学科:35回、研修部:15回、教務課:20回、計190回	【実績】来校者のホームページ認知度 36.6% (1)ホームページでの情報発信内容(学生の学習成果、トピックス、各種行事)内作成や情報発信が追いついていない部分がある。 (2)来校者へアンケートを実施。 (3)アクセス履歴は4～6月が多いことがわかった。興味の高い内容はトピックスで、その中でもプロジェクト紹介の内容で関心が高かった。 (4)ホームページ更新回数 計211回 野菜コース:64回、花きコース:22回、果樹コース:46回、畜産学科:30回、研修部:21回、教務課:28回	(1)農大の説明と合わせてホームページのPRも行い、認知度が上がるようにしていく。 (2)高校訪問などの際に説明しやすいプリントなどを作成し、ホームページの認知度を上げる。 (3)トピックスページの更新を継続的にしていく。 (4)検索エンジンなどで取り上げやすいワードをプログラムに組み込む。 (5)トピックスの中でもプロジェクトの紹介ページを集約して見やすくする。	教務課
		○マスコミ等を通じたPR回数 20回 (R3実績:20回、R4実績:16回)	(1)魅力あるイベントの企画、開催 (2)新聞やTV(サンサン、ひまわり含む)を活用した農大の魅力発信 (3)諫早市等の広報への投稿	【実績】 (1)本校体育館において、中央畜産会主催の担い手支援事業研修会を実施。県庁エントランスホールにて、チャリティ農産物販売会を実施。 (2)入学式:日本農業新聞、みじか長崎:KTN・NBC・NIB、学生募集:西海市広報誌、ながさきの果樹、インターンシップ:JAながさき西彼広報誌、果樹コース:諫早ケーブル、畜産スマート農業:長崎新聞、日本農業新聞、諫早ケーブル・ひまわりテレビ・畜産コンサルタント誌、飛雲祭:諫早FM・ひまわりテレビ、チャリティ:NHK・KT N・NBC・NIB、長崎新聞・NHKラジオ・NBCラジオ 計23回 (3)県ホームページへの記者投じ込みを行った。 (4)イオン九州各販売店(佐世保地区・県南地区)への学生募集ポスター貼付	(1)諫早市、長崎県等の広報への投げ込みを積極的に行う。 (2)農業大学校のPRIになるような企画を実施していく。	教務課
2	実践教育による、社会に役立つ人材の育成 (養成部)	○日本農業技術検定2級合格者(割合%) 2年生取得者30%以上(12名) ※取得済(4名)+新規取得全国平均(R4:21%)以上(8名)に見直し (R3実績:31%(10名)、R4実績:28%(8名)) ○日本農業技術検定2級全国平均点以上達成者(割合%) 1年生全国平均点以上の学生数30%以上(12月受験) (R3実績:21%、R4実績:18%) ※上記及び過去の実績に照らし見直し	(1)「園芸概論」「畜産概論」等基本的講義の理解度向上 (2)平素から問題集等で指導するなど受験対策の強化 (3)1年生は12月受験において、30%以上の者が全国平均点以上になるよう指導 (4)1年生に対し7月受験の働きかけを強化、なお3級未取得者は3級受験からのチャレンジを促し2級へのステップアップを図る 【学科・コース目標】 野菜コース:6名(うち取得済み2名) 花きコース:1名(うち取得済み0名) 果樹コース:2名(うち取得済み0名) 畜産学科:3名(うち取得済み2名)	【実績】 ○日本農業技術検定2級合格者(割合%) ・2年生の合格者割合:16%(6名/37名) 野菜:2名(目標6名) 花き:1名(目標1名) 果樹:0名(目標2名) 畜産:3名(目標3名) ○日本農業技術検定2級全国平均点以上達成者(割合%) ・1年生の全国平均点以上割合:43%(11名/2級受験者26名)	○2年生取得率30%以上(12名以上) ・過去問を中心に小テストを実施しながら、実習中にも栽培目目の具体的な説明を行うなどにより知識習得を促したが2級合格者は6名にとどまった。 ・年2回の試験のうち、就職希望者のモチベーションが比較的高い7月は2名が合格できたが12月は合格者がいなかったため、7月の受験対策の強化が必要。 ・1年生の7月試験において3級未取得者の受験を促し8名が合格し、その内3名は12月試験で2級に合格するなど着実にレベルアップできており、今後このような取組を継続したい。また、1年生の2級取得者4名が12月試験で1級に挑戦するなど意欲的な取組がなされており、支援を継続したい。	養成部
		○プロジェクト学習の内容充実 一定水準(70点)以上の発表 80%以上 (R3実績:100%、R4実績:76%)	(1)自主的かつ科学的な手法による栽培管理技術の習得 (2)確実な進捗管理の実施 (3)卒論中間発表会(9月)、卒論発表会(2月)の内容充実 (4)ルーラル電子図書館等を活用した最新技術情報収集・活用 【学科・コース目標】 野菜コース:15名/19名 花きコース:2名/3名 果樹コース:7名/8名 畜産学科:6名/7名	【実績】 ○一定水準(70点)以上の発表 95%(35名/37名) 野菜コース:19名/19名 花きコース:2名/3名 果樹コース:8名/8名 畜産学科:6名/7名	・全体の目標及び各学科(コース)別の目標ともに達成できた。 ・校内予選会で上位入賞した2名が九州大会に出場したが、惜しくも全国大会へは進めなかった。内容は非常にレベルの高いものであったが、今後はさらにプレゼン力を高めるよう支援していく。	養成部
		○農家派研修の評価(35点以上の割合%) 受入農家からの一定水準以上の評価 1年生:70%以上(R3実績:66%、R4実績:73%) 2年生:80%以上(R3実績:72%、R4実績:66%)	(1)学生の特性をよく把握した上での農家とのマッチング (2)研修効果を高めるためコミュニケーション方法など事前指導の強化 ・コミュニケーション力向上に向け、実習時に報告・連絡・相談等の基本的な取組を徹底する ・必要に応じ研修期間中の巡回等振興局と連携し実施する 1年生:8日間(6月) 2年生:30日間(10月) (3)進路や学生の意向に応じた研修先や通学による研修など柔軟に対応する	【実績】 ○1年生の評価 90%(26名/29名) ○2年生の評価 68%(25名/37名)	・1年生は例年に比べ評価が高く目標を達成できたが、2年生では、「積極的な質問がない等研修への意欲不足」、「コミュニケーション不足」等の受入農家から指摘があったため、以下のような対策を検討していく。 【農家等意見】 ・2年生では、学生の進路(就農・就職)に応じた研修先とのマッチング及び寮又は自宅からの通いで研修を実施 ・スマホ、会話、質問等コミュニケーション能力向上に向けた事前研修の充実	養成部
3	就農に向けた進路指導の強化 (教務課、養成部)	◎就農予定者及び農業技術者 90%以上(34名) (R3実績:94%、R4実績:93%) ○自営就農意向者への就農計画の策定率 70%以上(9名) ○学生のインターンシップ人数 20名 (R3実績:26名、R4実績:21名)	(1)インターンシップ研修、農業アルバイトによる実践学習 (2)農業法人説明会への参加誘導 (3)農業関連企業とのマッチング会の実施 (4)県内JA等との説明会の実施 (5)各地域就農支援センターとの連携強化及び自営就農意向者への就農計画策定支援 【学科・コース目標:自営就農+雇用就農】 野菜コース:6+4名就農 花きコース:0+1名就農 果樹コース:2+0名就農 畜産学科:4+2名就農	【実績】就農予定者及び農業技術者 97%(36名) (1)インターンシップ 参加人数 のべ22名 (2)農業法人説明会 参加人数 51名 (3)就農相談フェア 参加人数 14名 (4)JA等説明会 参加人数 41名 【学科・コース:自営就農+雇用就農 希望者数】就農計画面談実施 14名 野菜コース:8+5名 花きコース:0+0名 果樹コース:2+1名 畜産学科:4+1名	(1)早めに就職活動を始めさせたが、なかなか受験先を決めきれない学生がいた。 (2)県内に就職できるように指導していく。	教務課
		○農作業安全研修会 開催回数 40回以上 (R3実績:44回、R4実績:44回)	(1)大特・けん引研修等における農作業安全指導(通年) (2)各地域への研修開催働きかけ(10～11月) (3)各地域での研修会の実施(2～3月)	【実績】 39回(97.5%) (1)大特18回、けん引11回 (2)各地域での農作業安全研修10回 ・農大1年生に加え、新たに2年生に対しても農作業安全研修を実施し徹底を図った。 ・大特けん引研修時にシートベルトとヘルメット着用徹底を重点的に周知している。	(1)大特、けん引研修は当初の予定回数を実施することができた。次年度も、運転免許試験場との調整の結果、今年度より回数が減ることが想定される。 (2)各地域での農作業安全研修では、2月に予定していた研修が主催者の都合により中止となり、目標を達成することができなかった。今後、各地域での農作業安全指導を担う地域協議会の活動が活発化することが予想されるため、地域での農作業安全研修の回数も減ることが想定される。 以上のことから、農作業安全研修会の回数という評価指標の見直しが必要と思われる。	研修部
4	安全意識を持った農業機械利用者の養成とながさき農業オープンアカデミー開講 (研修部)	○オープンアカデミーの内容充実 アンケートで満足と回答80%以上 (R3実績:87%、R4実績:80%)	(1)受講者募集(4～6月) ・振興局担当者会議の実施 (2)開講準備(アンケート内容検討含む)(4～6月) (3)開講(7～11月) (4)アンケート結果とりまとめ(7～1月) (5)結果分析(1月) (6)問題点と次年度に向けての改善点の整理(1月) (7)次年度カリキュラム案の作成(2月)	【実績】 満足(10点満点中7点以上)と回答する受講生の割合 92%(115%) 【講座別実績】 オープン講座 76.3% 基本講座 84.5%	満足度(=7点以上)は、92%と高く、講座の内容や岡部講師の講義、グループワークが、受講生が求めていたものより内容が充実していたとの評価であったと思われる。受講生からの関心が高かった講座としては、経営計画や発表であった。オープン講座の満足度が低かったのは、音声聞き取りにくいなど、サテライト会場との接続環境が悪かったことが原因と思われる。	研修部
		○職場内コミュニケーションの活性化	(1)毎日の班内ミーティング(班長・班員)実施により、業務の決定・進め方や進捗状況を確認・共有し、業務の進め方にアドバイスしたり、フォローや協力等話し合う (2)懇親会の開催にあたり、職員間の業務外での交流が有意義なものとなるよう、その日程調整、開催場所及びイベントの企画等に協力する(5回以上/人) (3)職員同士や学生に対する声掛けや挨拶を励行する	(1)各課、各学科コース等における日々の業務は毎朝の全体ミーティングの際に、また、校内の全体行事等は毎月の科長会議や職員会議で、その共有や進捗状況の確認等行っており、職場内のコミュニケーションは活発かつ充実している。 (2)懇親会はコロナ禍が過ぎたものの、年度初めは国内研修社行会(7/7)を昼食会としたが、3年ぶりに暑氣払い(8/19夜)も開催され、引き続き、忘年会(12/22)、新年会(1/19)も実施することができた。その際、イベントとしてクイズ大会やビンゴゲーム等、いちい会と協力して行い、業務以外の対話も弾み、互いに打ち解けることができた。 送別会も3月に予定されており、年間の目標回数も達成見込みである。		総務課
5	健康で風通しの良い職場作りの推進 (総務課、教務課、養成部、研修部)	○業務の遂行に必要な柔軟な思考や知識の習得	(1)「ハラスメントのない快適な職場にするために(人事課リーフレット)」を職員全員で共有し、「ハラスメント」に対する思考や認識の再確認を行う (2)業務上のポジションや役割に有効な研修や講話等の選択的受講(指名研修や全庁的なものを除く1回以上/人)	(1)全職員に対し、7月にリーフレットを配布し、自身の言動について見直しと再確認を依頼するとともに、12月に全庁的に発信された通知等で再度注意を促した。 (2)職員全23名が業務遂行に必要な研修等を受講し、自己啓発や士気向上を図ることができた。(達成率100%)	(1)相手の受け止め方次第で「ハラスメント」となることの認識とその相互理解の共有。 (2)自発的な研修受講の意識付け。	総務課